

研究図書館の出版サービス

大学出版の新しいオプション

Karla L. Hahn

Office of Scholarly Communication、ディレクタ



米国研究図書館協会 (Association of Research Libraries)

発行: 米国研究図書館協会 (Association of Research Libraries)

21 Dupont Circle, NW, Suite 800

Washington, DC 20036-1118

電話(202)296-2296 FAX(202)872-0884

<http://www.arl.org/>

Copyright © March 2008

本書の著作権は米国研究図書館協会 (Association of Research Libraries) が取得している。ARLは、本書が実費以下の価格で配布され、各コピーに ARL、関係者、著作権情報が記載されていることを条件として、非営利活動、教育活動、または図書館業務のために本書を複製して配布することを全面的に許可する。この許可は、米国著作権法の Sections 107、108、その他の規定に基づいて付与された複製の権限に追加されるものとする。

目次

概要	4
主な調査結果.....	7
はじめに	9
図書館の出版サービス	11
基本サービス.....	13
出版プログラムの規模と対象範囲.....	15
サービスとビジネスモデル.....	17
出版のためのビジネスモデル.....	18
出版プログラムのサポート.....	19
パターンと傾向	23
大学出版というコンテキストの中の図書館出版.....	23
学者と研究者のニーズ.....	24
サービスの開始.....	24
規模を構築するための位置付け.....	26
将来への期待	28
将来検討すべき問題.....	29
巻末注	31
引用文献	32
付録 A: 調査の設計: データの収集手段と回答率.....	34
付録 B: 研究図書館の出版サービスと大学の出版部.....	37
付録 C: Synergies: カナダの学術出版での全国的インフラストラクチャの構築(転載).....	38
図および表リスト	
図 1 出版サービスについて報告した ARL メンバー図書館の割合.....	12
図 2 図書館出版サービスのソフトウェアによるサポート.....	13
表 1 図書館出版プログラムで提供する制作後のサービス.....	14
図 3 ジャーナルのタイプとジャーナル形式.....	17
図 4 ジャーナルのタイトル別の資金源.....	19
図 5 図書館の出版プログラムのサポート源.....	21
図 6 図書館が出版サービスで提供する追加サービス.....	22
図 7 出版部とのパートナーシップによって共同出版を行っているとして報告した図書館の数.....	38

概要

研究図書館の出版サービスプロバイダとしての新しい役割について深く理解するため、米国研究図書館協会 (Association of Research Libraries) では 2007 年後半に調査を実施し、協会のメンバーが提供する出版サービスに関するデータを収集した。この調査の後、10 の機関の出版プログラムマネージャとの半構造化面接を実施し、サービス開始のきっかけと動機付け、出版サービスの範囲、パートナーとの関係など、サービス整備のいくつかの側面についてより深く掘り下げた。

調査によって、研究図書館が出版サービスを急速に整備していることが検証された。2007 年後半の時点で、回答のあった 80 の ARL メンバー図書館のうち 44% が出版サービスを提供し、他に 21% が出版サービス整備の計画中だった。この分野に消極的なのは回答した機関の 36% のみだった。

これらの図書館では様々な著作物を出版しているが、中心になるのはジャーナルで、研究図書館の 88% がジャーナルを出版しているのに対して、会議論文と議事録を出版しているのは 79%、モノグラフ (専門研究書) を出版しているのは 71% だった。この新しい出版セクタで多数を占めるのは確立されたタイトルのジャーナルで、これがサービスを進展させる主な促進力となっているが、新しいタイトルも制作されている。報告されたタイトルの数は、学術出版というパイの中では薄い一切れに過ぎないが、回答者全体で 265 タイトルを取り扱っている。その内、131 は確立されたタイトル、81 は新しいタイトル、53 は調査時点で開発中のタイトルだった。平均して、各図書館は 7 または 8 タイトルを取り扱い、6 タイトルは現在利用できるものだ。

学術出版の状況を変える力のあるアプローチを探して、研究図書館の出版プログラムでは、一部のプログラムマネージャがサービスの中核という概念で説明しているものの境界を意識的に調査している。課題は、資金の再割り当て、提携、関連サービスとの相乗効果の追求、適度な収入源の開拓によって、一連の基本サービスを提供することだ。従来の出版サービスの複製を目標にする図書館は少数かまったく存在しない。図書館は、従来型モデルを模倣するか単に自動化するのではなく、新しいモデルの機能と可能性に重点を置いている。同時に、著者と編集者を支援するために必要となる、有望な新種のサービスを特定しようとしている。

図書館の出版プログラムでは査読済み論文が多数を占め、編集者または受入委員会が内容の質を判定するという伝統的な役割を保持しているのが一般的だ。図書館では査読のワークフローを合理化するための技術的なサポートを行うことは多いが、査読そのものは提供していない。一部の出版プログラムが提供している原稿ハンドリングサービスは、確立された出版物の編集者にとって大きな魅力だった。

図書館の出版プログラムマネージャは、ホスティングサービスへの要望は大きいと報告している。図

書館は少なくとも基本的なホスティングサービスを提供するものと位置付けられることが増えている。Public Knowledge Project の Open Journal Systems¹ や DPubs² のようなオープンソースソフトウェアを、The Berkeley Electronic Press (bepress) が Digital Commons³ によって提供しているような新しい商業サービスとともに使用すると、図書館では基本的なジャーナルホスティングを比較的容易にサポートできる。

様々な出版プラクティスと意思決定についてのアドバイスとコンサルティングは、さらに人気の高いサービスになっているようだ。紙の出版物の電子出版への移行、電子出版を選択することによる印刷の廃止、収益を上げる可能性が限定された著作物の出版、収益の創出、様々な標準規格、マークアップとコード化、メタデータの生成、保存、サービスプロバイダとの契約、著作権管理などの問題についての情報とアドバイスへの要望は高まっている。

図書館の出版サービスには精巧な出版物を制作するという自負は少なく、図書館では従来の出版社とは異なる経済性を求めている。図書館の制作物は確かに従来の出版社が制作した出版物と似ているが、その多くは電子出版のみでデザインは簡素だ。純粋に電子出版のみのサービスに制限することで、印刷を基本とする出版より大きなメリットをいくつか得られる。制作とデザインを簡素化し、オープンソースのソフトウェアを利用することで費用を低く維持できる。オンラインのフルテキスト出版物は様々な検索エンジンと全文検索機能によって検索できるため、マーケティングの必要性が少なくなる。ワークフローは合理化され、制作段階に入るとほとんどのサービスをかなりの程度自動化できる。

多くの出版活動での目標は、中核的な図書館サービスとして管理できるように、出版費用を低く維持することだ。ジャーナル出版の立ち上げと開設の費用は、通常、継続的な出版または普及活動の費用よりかなり高い。ほとんどの学術出版と同様に、コンテンツの獲得と選定の作業の多く、また一部の編集についても、現役の学者と研究者から選ばれた無償のボランティアが行っている。アドバイス、プロトタイプ化、ワークフロー作成、適切と考えられるあらゆるレイアウトとグラフィックデザインの生成などの立ち上げ作業には最大の費用がかかる。いくら削減しても、基本的な出版サービスの提供に実費用がかかるのはやむをえない。

図書館は出版サービスプログラムをサポートするために組織の資金から大きな出資をしているため、図書館出版の大部分が、オープンアクセスや投資を最大限に活用する努力が可能なビジネスモデルを採用していても驚くことではない。本質的にアクセスを制限する予約購読型モデルへの助成に代わって、ローカルで管理されるオープンアクセスの出版物を助成するようになっている。図書館は、予約購読ベースのビジネスモデルと従来型の印刷に関わる大きな諸経費を回避している。

図書館の出版サービスには、出版レベルの計画とプログラムレベルの計画という2つのレベルのビジネス計画があることが明らかに見てとれる。多くの図書館はこれらを混合したモデルで2種類の投資を管理している。開設には助成するが継続的な出版活動には別の資金調達を行うか、または開設には特別な資金を求め継続的な出版活動は図書館の中核サービスとして支援するかである。

図書館の出版プログラムを支援するメカニズムは多様で、通常は多角化されている。回答した図書館のほとんどは少なくとも2つの(少数の図書館ではもっと多くの)異なる資金源に依存しており、将来は資金源をさらに多角化することを計画している。とはいえ、ほとんどの図書館の出版サービスは、図書館の運営サポートを大きな基本的資金源としている。現在図書館の予算財源を利用している回答者はすべて、この資金源への依存を続けることに期待している。図書館からの基本予算と間接費の支援に加えて、他の収入源としては助成金、ユニットや組織への課金、著作権使用料とライセンス費、オンデマンド印刷による収入、その他の何らかの営業収入などがある。提携はプログラムのサポートを多角化するための一貫した戦略で、図書館は複数のパートナーと連携することが多いと報告し

ている。出版サービスは、大学の出版部のように、個別の運営ユニットとして取り扱われることは少ない。通常は、デジタルリポジトリ整備、デジタル化プログラム、著作権管理のアドバイスなど、関連するサービスの新しいプログラムに組み込まれる。

主な調査結果

出版サービス、特にジャーナル出版サービスは、研究図書館では急速に一般化している。

サービスの整備は、主に著者や編集者など、大学の要求によって促進されている。学者や研究者は、実現されなかった要求を図書館に持ち込む。彼らは出版の能力だけでなく、出版と学術的コミュニケーションに影響を与えるパラダイムシフトに適応するための専門知識とアドバイスを求めている。

図書館は従来の出版システムの中のすき間に対処している。図書館は、従来の出版物の複製ではなく、既存のタイトルと新しいタイトルを取り混ぜて扱っている。従来の方法で出版したタイトルを、情報交換のための新しいネットワーク環境に移行する機会を求める出版者や編集者と共同で作業を行うことが多い。

Open Journal Systems (OJS)、Open Conference Systems (OCS)、DPubs、DSpaceなどのオープンソースアプリケーションへの多大な投資は、サービスの整備を促進している。さらなる開発への投資が続いている。たとえば、Synergies プロジェクトの資金拠出には OJS 用コンポーネントの開発が含まれている。

研究図書館が出版したタイトルの数は、学術出版というパイの中ではとても薄い一切れだが、研究図書館全体としてはコンテンツの大きな本体を作り始めている。出版プログラムは、中核サービスの定義された本体の中で規模を構築することに意識的に集中している。

図書館の出版サービスは、図書館が発展させてきた、あるいは発展させている様々な新サービスの一環である。サービスの進化にこれという順序はないように見えるが、出版サービスは共同で管理され、デジタル化イニシアティブ、デジタル人文学イニシアティブ、デジタルリポジトリ整備、学習オブジェクトの開発、デジタル保存活動などの、様々な新しいサービスと統合されることが多い。

図書館の出版サービスは、研究図書館のサービス文化と調和するように進められている。他大学の事業体とのパートナーシップは一般的である。

問題は、もはや図書館が出版サービスを提供すべきかどうかではなく、どのようなサービスを提供できるかになっている。したがって経営陣は、特に図書館サービスの関連のある変化という文脈の中で、図書館の出版サービスへの投資が大学にとってどれほどのメリットになるかを問わなくてはならない。新しい投資は必要だが、そこには出版サービスの大きな需要と、戦略的な投資から得られる大きなメリットがある。

はじめに

新しい知識の普及は研究事業の核心だ。これは一般に認められた真実だが、デジタル情報とネットワークの新しい機能は、学術出版を含む学術的コミュニケーションの確立されたメカニズムのほぼすべてに疑問を投げかけている。出版プロセスでの研究図書館の役割も、この分野の問題の1つだ。学術出版において、出版社、研究者、図書館の間には長い間均衡が保たれてきたが、現在はこの3者のすべてが普及プロセスでの従来の役割を見直している。

学術出版がどれほどの繁栄または危機に直面しているかという問題は、図書館や出版社だけでなく、学者や研究者にとってもますます重要になっている。新しいタイプの変容するコミュニケーションおよび出版活動の機会と、従来の学術出版メカニズムにつきまとう問題についての懸念との間の均衡を示す指標は多数あるが、最近報告された「Report of Modern Language Association Task Force on Evaluating Scholarship for Tenure and Promotion」(MLA Task Force on Evaluating Scholarship for Tenure and Promotion, 2006)もその1つだ。このレポートは、新しいタイプの学術成果を有効な学術的貢献と認めることを奨励する強い主張になっている。また、現在の学術的モノグラフ出版と、その学術的貢献の評価を調停する機能について、多くの学者がどれほどの懸念を持っているかも示している。

学術を普及するための新しいプラクティスと、新しい種類の学術成果は、多くの分野で活躍している。物理学の arXiv から人文科学の Zotero まで、紙の印刷に制限された古い出版環境の障壁を乗り越えるため、学者自身が新しいソリューションの進展を主導している。ACLS のレポート「Our Digital Cultural Heritage」は、(新しい種類の学問に加えて)新しい出版形態と普及方法の機会の多くを明示し、投資のための行動計画を展開している。(American Council of Learned Societies Commission on Cyberinfrastructure for Humanities and Social Sciences, 2006) 出版のプラクティスは、懐古主義者が思うほど同一であったことはないのだろうが、ワールドワイドウェブによる技術的進歩のホストとしてますます多様化し、より多くのオプションと新しい需要を生んでいる。新しいモデルの出版の機会と成果は、近日発表される ARL レポートで詳細に考察される予定だ。

新しいモデルの学術出版と新しい普及システムがもたらす新しい機会には説得力があるのだが、ACLS レポートは次のように述べている。

このシステムには、少なくとも次に示す3つの経済性が関与する。

1. 名声の経済は、学者にとっては一番重要だが、他の関係者にとっては二番目。
2. 市場の経済は、出版社にとって一番重要だが、学者にはそれほど重要ではなく、図書館にとっては重要だが一番ではない。
3. 助成金の経済は、大学からの助成を受けている図書館にとって一番重要だが、出版社は以前ほ

ど利用できず、学者にとっては自身で思っているより重要だ。3つの異なる経済性で構成されるシステムの運営を成功させるのが困難なのは当然だろう。(p. 22)

学術出版市場は学者や研究者にとって最重要事項でないだろうが、従来型の出版市場の問題は学者たちの意識に影響を及ぼし始めている。MLAレポートとACLSレポートはどちらも、モノグラフ出版に特別に注目している。これらと同様に、Ithakaのレポート「University Publishing in a Digital Age」は、大学の出版部によるモノグラフ出版が直面する問題と、この出版分野への大学のサポートを緊急に見直す必要性を特に強調している。(Brown, 2007)

ジャーナル出版もまた、人文科学だけでなく科学分野でも懸念を生んでいる。大手の商業出版社は出版物のリストを拡大して出資者に大いに報いているが、学術団体であることが多い小規模な出版社は、ますます多くの課題に直面している。多くの小規模出版社は、特に国内で、購読者数の減少に苦しんでいる。(Van Orsdel, 2007) また、研究図書館でも、ジャーナル正会員の購読が中止になったプロジェクトを報告している。(Hahn, 2006) 電子形式の整備が遅れているジャーナルのほとんどは、1つまたは少数のタイトルを印刷する出版社のものだ。新しいデジタル世代に向かう道を見つけるのに苦労しながら、困難な選択を迫られている。毎年、Wiley Blackwellなどの大手商業出版社は、団体出版物の請負の増大を公表している。(Orphan, 2006) BioOne⁴、Project Muse⁵などの少数の非営利コラボレーションは、一部に代わりになるルートを提供しているが、多くの小規模出版社は別の道を探している。(Crow, 2006)

編集と著述を行う学者と研究者は独自の展望を持っている。大学では、多くの研究者がどこで何を出版できると報告している。(King, 2006) しかし同時に、新しい研究分野、学際的分野、失敗事例、または小規模な資金不足の専門分野に十分な場所があるかどうかという懸念が一定して示されている。(Candee, 2007) 一部の団体や編集者は、十分な収益を生むビジネスモデルを提供できないジャーナルの管理を出版パートナーから戻される状況に直面している。(Phillipp, 2007) まだ印刷物として制作されている出版に関わる研究者や学者でも、将来ジャーナルを維持するために何らかの方法で電子出版にシフトしなければならないと気付く人々は増えている。電子バージョンが存在する場合でも、純粋に電子的な出版に移行することは難しい課題である。(Johnson, 2007)

図書館はデジタル世代の情報環境に合わせて組織を積極的に変化させているため、利用者の多くから出版サービスのプロバイダにふさわしいと見られている。研究図書館は、以前に出版された(または未出版の)著作物をデジタル化して再配布するプログラムによって既存のコンテンツの新しい普及メカニズムを提供し、様々な大規模デジタル化プロジェクトに参加している。ほとんどの研究図書館では、スタッフが学部とともに様々な学術出版問題についての調査を行っている。(Newman, 2007) 学者と研究者が、編集者として、著者として、または学術団体のリーダーとして従来の出版システムの中でのすき間に取り組みようになり、図書館は大学側に立つサービス組織として目立つ存在

になっている。また、e-scholarship の出現によって、デジタル人文学イニシアティブから e-science プログラムまで、図書館は研究者や学者とより緊密に共同して、研究プロセスに緊密に統合された新しいサービスを整備している。

その結果、特にローカルで制作された幅広い学術的著作物について、研究図書館が従来の学術研究だけでなく現在の学術研究についても責任を負うことへの期待が高まっている。学術機関の記録、学位論文、未査読論文、査読済み論文、学習オブジェクト、研究データの保管と普及の場所としてのリポジトリサービスの発展は、出版サービスの可能性についての幅広い探求をかきたてる。ジャーナルやモノグラフのような著作物の出版を短工程で管理できる可能性があり、学部は研究図書館が出版サービスに乗り出すように提案している。

Virginia Tech の Web ページに、次のような典型的な話が掲載されている。

「1988 年の Virginia Tech の学部メンバーからの新しい学術ジャーナル開始の要望と、大学の出版部を開設する別の要望から、電子図書館およびアーカイブは成長してきた。大学は急速に成熟する技術ベースを使用して、新しい学術的著作物を出版できる場所を開設できると考えられていたが、印刷ベースの出版運営から開始するために必要な設備投資はなかった。学部の編集者になる人々が必ずしも技術に習熟しているとは限らないため、サポートサービスが必要なのは明らかだった。さらに、将来の電子学術論文の定義と説明を開始する必要もあった。」⁶

ニーズの高まりに直面した研究図書館は、その資金と使命を評価して、実行できる重要な役割があると判断した。出版サービスは、新しい社会技術的な環境と、何らかの形態による学術出版へのニーズの同時発生を反映した「適合」感覚から生まれた。

高速で容易なコミュニケーションを促進する技術は、新しい種類のデジタル普及、新しい制作プロセスとワークフローを含めて、出版に関連する専門知識の中心をシフトして、幅広い定義を可能にした。これまではベンダーに委ねられていた小規模出版の一部は、大学で提供できる、またはすでに提供されているサービスに、ますます似たものになっている。

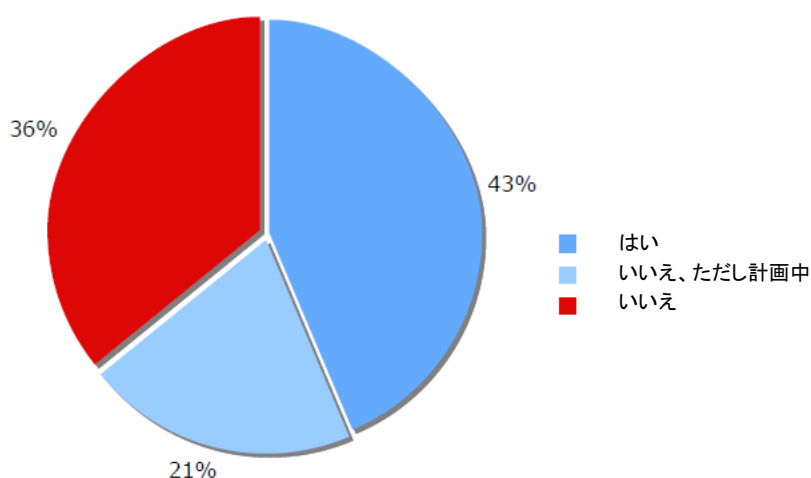
図書館の出版サービス

多くの研究図書館が、出版の役割を果たすことを積極的に考えている証拠は増えている。2007年6月/8月特別合併号の「ARL: A Bimonthly Report」では、様々な図書館の出版サービスと計画についての記事を含めて、大学出版について検証している。⁷ 高等教育機関の出版物には、図書館の出版活動についての定期的な告示と報告が記されている。(LJ Academic Newswire, 2008; Jaschik, 2007; Pitt Press, 2007; Jaschik, 2008) それでも、図書館のデジタルリポジトリ活動についての研究は多数あるのに比べて、研究図書館の出版活動についての組織化された調査はない。

研究図書館のこの新しい役割について深く理解するため、米国研究図書館協会 (Association of Research Libraries) では2007年後半に調査を実施し、協会のメンバーの出版サービスに関するデータを収集した。調査の計画にあたっては、新しい出版プログラムのほとんどが重視しているジャーナル出版に特に注目した。この調査の後、10の機関の出版プログラムマネージャとの半構造化面接を実施し、サービス開始のきっかけと動機付け、出版サービスの範囲、戦略的パートナー(主に学部と大学の出版部)との関係、ビジネスモデル、プログラムサポートなど、サービス整備の主な側面についてより深く掘り下げた。これらの情報源を合わせて、本書の証拠となる基盤とした。(付録Aに、データ収集プロセスの詳細を示す。)

ARL メンバー図書館の調査からは、研究図書館が出版のホスティングや普及などの出版サービスと、査読のワークフロー管理とジャーナル編集などの制作サポート、またバックナンバーのデジタル化を急速に進展させていることが実証された。2007年後半の時点で、回答のあった80のARLメンバー図書館のうち44%が出版サービスを提供し、他に21%が出版サービス整備の計画であった。このサービス分野に消極的なのは回答した機関の36%のみであった。

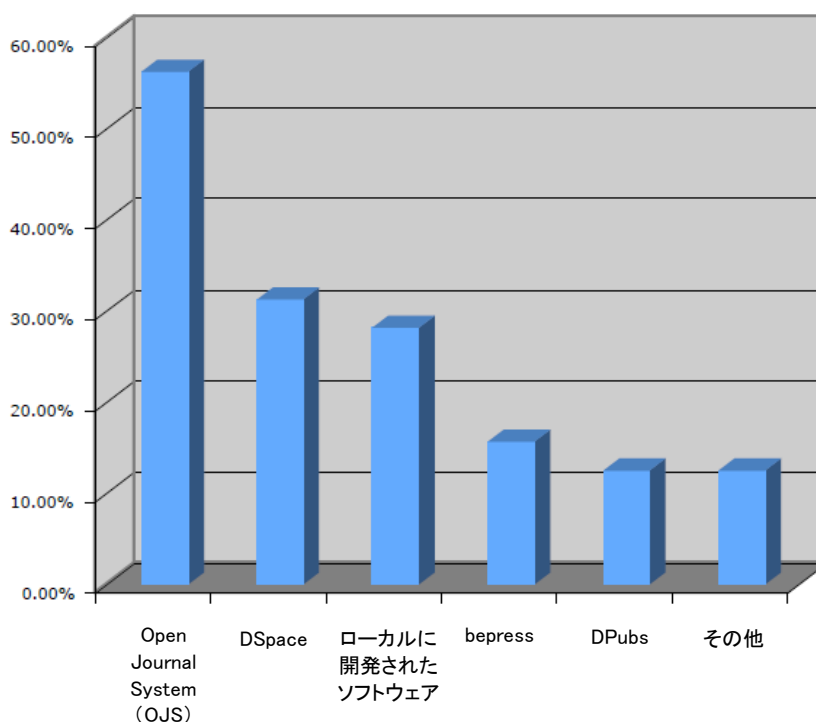
図1 出版サービスについて報告したARLメンバー図書館の割合



基本サービス

ホスティングサービスは、おそらくデジタル世代の典型的な出版サービスだろう。図書館の出版プログラムマネージャは、ホスティングサービスの需要は大きいと報告している。ホスティングは図書館が提供するサービスの中で最も目立つ傾向があるが、公開するまでに長い整備期間が必要だ。図書館は少なくとも基本的なホスティングサービスを提供するものと位置付けられることが増えている。Public Knowledge Project の Open Journal Systems⁸ や DPubs⁹ のようなオープンソースソフトウェアを、The Berkeley Electronic Press (bepress) が Digital Commons¹⁰ によって提供しているような新しい商業サービスとともに使用すると、図書館では基本的なジャーナルホスティングを比較的容易にサポートできる。

図 2 図書館出版サービスのソフトウェアによるサポート



注: 多くの図書館は複数のアプリケーションを使用している。

オープンソースの Open Journal Systems (OJS) が ARL 図書館に与えた影響は調査回答からも明らかだ。回答のあった図書館の半数以上が、これを使用して出版サービスを運営している。DSpace ソフトウェアは、出版サービスだけでなくリポジトリのサポートのためにも広く配備されているが、他のソフトウェアと組み合わせてアーカイブと保存のサービスを提供するために使用されることが多い。ローカルで開発されたソフトウェアは予想以上に一般的だが、新しいアプリケーションが利用できるようになって、いくつかの図書館はオープンソースソリューションに移行すると報告している。

回答した図書館の大多数は、図書館または大学内をベースにホスティングサービスを提供しているが、実力のある少数派は、出版サービスも提供するリポジトリサービスベンダーである bepress の Digital Commons と、ホスティングサービスおよび出版アプリケーションの契約を結んでいる。Digital Commons は図書館をハードウェアとソフトウェアのどちらのサポートからも解放するため、スタッフをコンサルティングやワークフロー設計などの他の出版サービス機能に振り分けることができる。

「出版サービス」というと、すぐ思い浮かぶのはホスティングサービス(サーバーサポート、ソフトウェア開発またはインストール)だが、実際には、様々な出版プラクティスと意思決定についてのアドバイスとコンサルティングの方が、図書館が提供するサービスの中で人気が高いようだ。紙の出版物の電子出版への移行、電子出版を選択することによる印刷の廃止、収益を上げる可能性が限定された著作物の出版、収益の創出、様々な標準規格、マークアップとコード化、メタデータの生成、保存、サービスプロバイダとの契約、著作権管理などの問題についての情報とアドバイスの需要は高まっている。アドバイスとコンサルティングが、出版物を制作する図書館の役割につながることもあるが、多くの場合は学術出版分野のより幅広い活動とオプションに関わることになる。

図書館は、古い印刷出版物、特にジャーナルのバックナンバーのデジタル化のサポートによって出版サービスを補完することが多い。既存のデジタルコンテンツを新しい形式に変換することもよく行われている。どちらのサービスも継続的な出版活動を拡充する。ジャーナルとモノグラフシリーズについては、デジタル化によって重要な多量のコンテンツの構築を助けて読者の関心を引き、大学出版部など既存の出版社と提携する機会を生む可能性がある。

基本的なホスティングに加えて、図書館では、永続 URL、原稿のハンドリングシステム、LOCKSS のようなプログラムによる保管などの関連サービスを提供している。多くの図書館はワークフローの設定、出版デザイン、マークアップ、ファイル世代管理、オンデマンド印刷などのサービスについても調査している。ホスティングサービス管理はより日常的になったため、少数の図書館では入稿整理や基本デザインサービスなどの分野にも乗り出している。

表 1 図書館出版プログラムで提供する制作後のサービス

サービス	発生する割合
メタデータ	82%
目録作成	76%
デジタル保存 (LOCKSS など)	55%
ISSN 登録	33%
オープン URL サポート	33%
その他	33%
A&I ソースの通知	24%

図書館では査読のワークフローを合理化するサポートを行うことは多いが、査読そのものは提供していない。図書館の出版プログラムはローカルで執筆された著作物の制作や、内容の審査なしでの出版に限定されるものではない。実際、限られた資金でプログラムを開始するため、図書館は投資する作業を注意深く選択する必要がある。その結果、図書館の出版プログラムでは査読済み論文が多数を占め、編集者または受入委員会が内容の質を判定するという伝統的な役割を保持しているのが一般的だ。査読プロセスをサポートするアプリケーションは、一般的にホスティングサービスの重要な補助とされていた。OJS システムでは、査読管理はソフトウェアスイートの必要不可欠な部分になる。一部の出版プログラムが提供している原稿ハンドリングサービスは、確立された出版物の編集者にとって大きな魅力だ。

従来型の出版と比較すると、図書館が提供するサービスには欠けた点がある。しかし、学術出版の状況を変える力のあるアプローチを探すと、いくつかの研究図書館の出版プログラムで、一部のプログラムマネージャがサービスの中核という概念で説明しているものの境界を意識的に調査している。これらは、ジャーナルやモノグラフのような認められた伝達手段によって、効率的で効果的な学術的な著作物の選択、リリース、普及を支えるために必要な最小限の活動を特定しようとしている。課題は、資金の再割り当て、提携、関連サービスとの相乗効果の追求、適度な収入源によって、一連の基本サービスを提供することだ。図書館は従来型の出版サービスの複製を望んではいない。図書館は、従来型モデルを模倣するか単に自動化するのではなく、新しいモデルの機能と可能性に重点を置いている。従来型モデルと新しいモデルの出版活動の両方を支える中核的サービスがあることを承知して、出版プログラムは最小セットの定義とそのサポートに必要なものを学習することに集中している。同時に、図書館では著者と編集者を支援するために必要な、有望な新しいサービスを探し求めている。

出版プログラムの規模と対象範囲

図書館は様々な種類の著作物を出版しているが、図書館ベースの出版プログラムではジャーナル制作のサービスが多数を占め、研究図書館の 88% がジャーナルの出版を報告している。同時に、71% はモノグラフ出版を手がけると報告している。一部のモノグラフプロジェクトは図書館と出版部が共同で行っているが、多くは単に図書館ベースで、大学のユニットまたは学者個人の要求によって開始されている。調査の回答者は会議論文と議事録の出版活動も多いことを報告しており、79% だった。¹¹

研究図書館が制作するタイトルの数は、学術出版のパイの中では薄い一切れである。少数のモノグラフが報告されているが、その多くは従来型のモノグラフではない。新しい図書館ベースの出版サービスではジャーナルに重点を置いているが、ほとんどの機関では出版されたジャーナルの総数は少ない。調査の回答者は 265 タイトルを手がけ、そのうち 53 タイトルは調査時点で整備中だった。平均して、各図書館は 7 または 8 タイトルを取り扱い、6 タイトルは現在利用できるものだ。少数の図書館

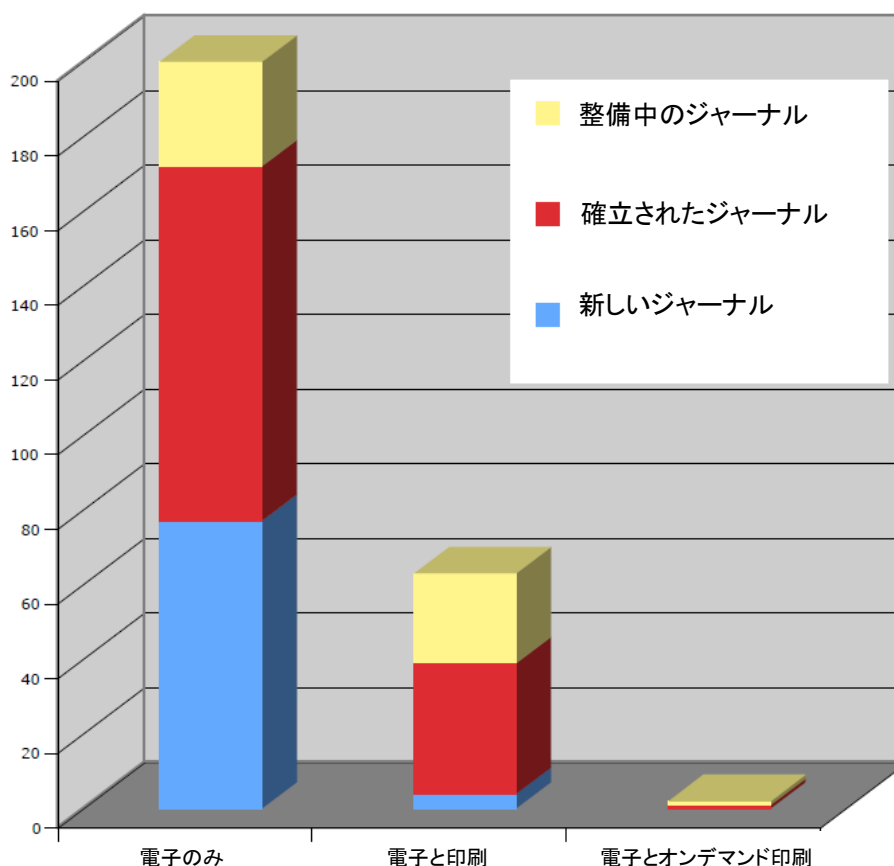
ではもっと多くのタイトルを出版しているが、10 タイトルを超えると報告したのは 5 つの図書館のみで、最大のサービスは 58 タイトルを出版している。

図書館は新しいタイトルを制作するだけではない。実際には、確立されたタイトルがこの新しい出版分野の大半を占めており、サービス進展の主な促進力になっている。すでに利用できるジャーナルのうち、131 は図書館が出版を手がける前から確立されたタイトルで、81 は新しいタイトルである。プログラムマネージャのインタビューは、これらのタイトルが幅広い学術分野を反映していることを示唆しているが、出版サービスの中で多数を占めるのは人文科学のタイトルだ。図書館の出版サービスを頻繁に利用する分野には、英語、歴史、教育、看護などがある。

図書館は、印刷と電子出版の両方の出版サービスを提供しているが、生産物としては電子出版が大多数である。図書館が出版したほとんどのタイトルは、電子的な形態でのみ制作されている。タイトルの印刷版が制作される場合は、出版パートナーが印刷物を生成し、図書館は電子出版を取り扱っている。現在のところ、オンデマンド印刷サービスはあまり使用されていないが、少数のプログラムでは積極的にこの機能を調査している。

出版の基礎を重視していることを反映して、Web 2.0 のソーシャルネットワーキングと利用者によるコンテンツ生成機能は、図書館の出版プログラムではまだあまり知られていない。これが変化する可能性を示すいくつかの兆しはある。ペンシルバニア大学の図書館が運営する Penn Tags ソーシャルブックマーキングサービスなど、他の図書館サービスのコンテキストの中でこのような機能が発展している。¹²

図3 ジャーナルのタイプとジャーナル形式



サービスとビジネスモデル

図書館の出版サービスには精巧な出版物を制作するという自負は少なく、図書館では従来の出版社とは異なる経済性を求めている。図書館の制作物は確かに従来の出版社が制作した出版物と似ているが、その多くは電子出版のみでデザインは簡素だ。純粋に電子出版のみのサービスに制限することで、印刷を基本とする出版より大きなメリットをいくつか得られる。制作とデザインを簡素化し、オープンソースのソフトウェアを利用することで費用を低く維持できる。その一方で、オンラインのフルテキスト出版物は様々な検索エンジンと全文検索機能によって検索できるため、マーケティングの必要性が少なくなる。ワークフローは合理化され、制作段階に入るとほとんどのサービスをかなり自動化できる。デザインの作業は通常はたいへん小規模に行われる。

ほとんどの学術出版と同様に、コンテンツの獲得と選定の作業の多く、また一部の編集についても、現役の学者と研究者から選ばれた無償のボランティアが行っている。

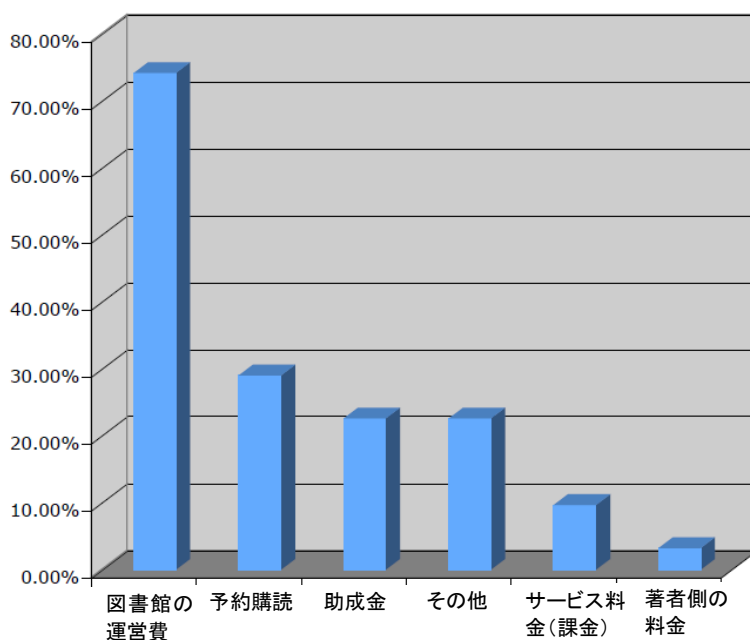
アドバイス、プロトタイプ化、ワークフロー作成、適切と考えられるあらゆるレイアウトとグラフィックデザインの生成などの立ち上げ作業には最大の費用がかかる。こうした活動を継続的にサポートするコストは小さい規模で発生する。通常、編集者、著者、または提携するパートナーが、精巧なデザインとレイアウト、広範な入稿整理などの高価なサービスを受けることはほとんどない。

出版のためのビジネスモデル

いくら削減しても、基本的な出版サービスの提供に実費用がかかるのは当然だ。図書館がサービス費用をどのように維持しているのかを調査すると、図書館の出版サービスには、出版レベルの計画とプログラムレベルの計画という2つのレベルのビジネス計画があることが明らかに見てとれる。最も一般的なのは、個々の出版物で収入が生じた場合に、それでサービス費用全体をまかなうことはできず、その出版物のより幅広いプログラムサポートのための補足とすることだ。少数のケースでは、プログラムのビジネスモデルで、すべてのプロジェクトが収益的に中立になることを求める、つまり各プロジェクトが収益を生むように期待している。ほとんどの図書館出版サービスは、プログラムレベルの出資に依存し、個々のタイトルからの収益はこのサポートのわずかな補足になるだけだ。

図書館では、従来型のビジネスモデルから革新的なビジネスモデルまで幅広く導入している。ジャーナルは図書館の出版プログラムの大半を占め、また継続的な費用を生じさせるため、ビジネスモデルについての情報のほとんどはジャーナルに焦点を合わせている。いくつかの図書館の出版プログラムは予約購読制のジャーナルをサポートし、またいくつかの図書館が出版した著作物は印刷でも利用できる。

図4 ジャーナルのタイトル別の資金源



図書館は出版サービスプログラムをサポートするために組織の資金による大きな出資をしているため、図書館出版の大部分がオープンアクセスや投資を最大限に活用する努力が可能なビジネスモデルを採用していることは当然だ。本質的にアクセスを制限する予約購読型モデルへの助成に代わって、ローカルで管理されるオープンアクセスの出版物を助成することになる。図書館がオープンアクセス出版のみサポートしている場合、その決定には、予約購読型のビジネスと従来型の印刷出版にともなう大きな間接費を排除するという真に実際主義的な要素も含まれている。少数の読者にアクセスを制限する費用は、予約購読で収入を生む機会を超えることがある。多くの出版活動での目標は、中核的な図書館サービスとして管理できるように、出版コストを低く維持することだ。

図書館の出版サービスは時々、従来型のビジネスモデルによる印刷出版に対するオンラインでの補足物を制作する。印刷出版による収入が、図書館が制作するデジタル出版を補助することがある。いくつかの図書館は、予約購読型の取り扱い機能を整備して、より多くのジャーナル読者にサービスを提供することを検討している。これは近い将来は、図書館の出版が多様なビジネスモデルのサポートを継続することを示しているようだ。

一部の図書館出版プログラムでは、収益を生む可能性のあるアプローチとして実験的にオンデマンド印刷を行っているが、プログラムマネージャとのインタビューは、オンデマンド印刷では出版プログラムの費用を完全にサポートできそうにないことを示唆している。中には、オンデマンド印刷サービスを大学出版部とのパートナーシップで行っているところもあるが、他の図書館では単に商業的なベンダーと直接契約を結んでサービスを提供している。

ジャーナル出版の立ち上げと開設の費用は、通常、継続的な出版または普及活動のコストよりかなり高い。多くの図書館はこれらを混合したモデルで2種類の投資を管理している。開設には助成するが継続的な出版活動には別の資金調達を行うか、または開設には特別な資金を求め継続的な出版活動は図書館の中核サービスとして支援するかである。機関に特有の要素は、現行の様々なパートナーシップとともに、このパターンに影響を与えているようだ。

出版プログラムのサポート

出版レベルでの出資モデルの分析が示唆しているように、図書館の出版プログラムを支援するメカニズムは多様で、通常は多角化されている。図書館のほとんどは少なくとも2つの(少数の図書館ではもっと多くの)異なる資金源に依存しており、将来は資金源をさらに多角化することを計画している。とはいえ、ほとんどの図書館の出版サービスは図書館の運営サポートを大きな基本的資金源としており、これに一定レベルの継続的な大学のITサポートが追加されることが多い。サポートは運営と資金の再割り当てだけに限定されない。いくつかのプログラムでは、収益を生むための真の機会を発見しており、さらに新しいモデルを発展させる可能性がある。

図書館では様々な資金調達と収益のモデルを使用しているが、ほぼすべての研究図書館は、サービス整備費とサポート費の大部分の基盤を図書館の予算としている。一部では様々な形態の短期資金調達を利用して、図書館のサービスの開始と、おそらく初期のいくつかのプロジェクトの立ち上げをサポートしている。現在図書館の予算財源を利用している図書館はすべて、この資金源への依存を続けることに期待している。予算でサポートされるのは、通常は圧倒的にスタッフ時間で、しばしば既存スタッフの時間の一部、様々な形態の間接費、時には設備サポート、また場合によっては短期間の学生アルバイトまたは契約アシスタントである。

図書館からの基本予算と間接費の支援に加えて、他の収入源としては助成金、ユニットや組織への課金、著作権使用料とライセンス費、オンデマンド印刷による収入、その他の何らかの営業収入などがある。出版サービスの整備を促進するための最大の助成金財源は、ARLのカナダのメンバー図書館の多くに分配されている。カナダ政府は、Synergiesプロジェクトを通して大学コンソーシアムに資金を提供しており、特にカナダの芸術と社会科学の学術団体を支援して、デジタル出版環境に完全に移行するための補助を行っている。¹³この資金は、特にインフラストラクチャ整備のために与えられるもので、継続的で直接的なプログラムサポートではない。

図5 図書館の出版プログラムのサポート源

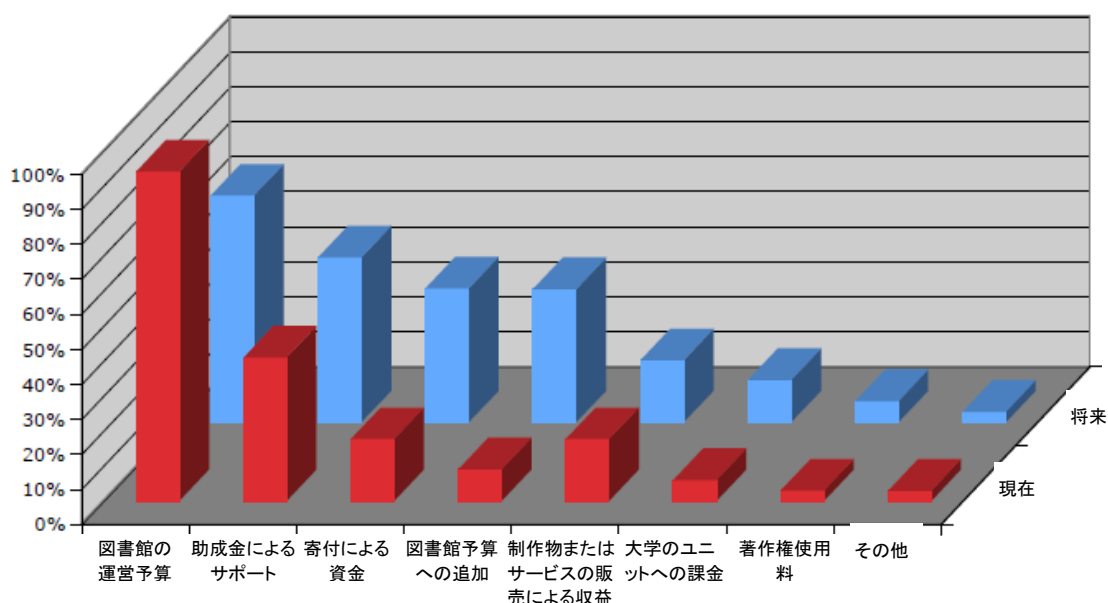
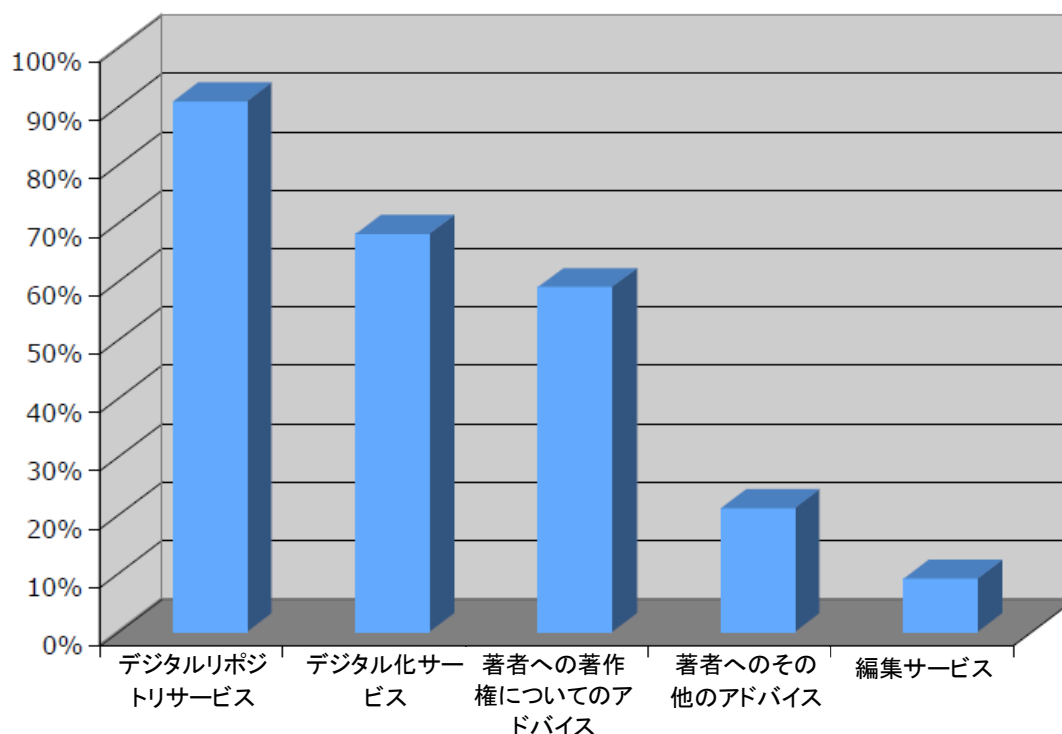


図 6 図書館が出版サービスで提供する追加サービス



提携はプログラムのサポートを多角化するための一貫した戦略で、図書館は複数のパートナーと連携することが多いと報告している。図書館は、大学の情報技術、部門、カレッジその他の大学のユニット、大学の出版部、学術的団体、他の図書館と提携していると報告している。これらのパートナーは、スタッフ、設備、コンテンツ、サービス、直接の資金提供など様々なサポートを行っている。調査対象の図書館は、Synergies 関係の図書館は例外として、現在の助成金によるサポートは非常に低レベルだと報告している。一部のケースでは、資金を、外部で制作した資材の入手から、ローカルで制作された研究や学術論文を普及させるためのより直接的なサポートへと振り分け直している。

維持できる一連の中核的な出版サービスを特定するプロセスの一環として、図書館では、可能であれば、通常は図書館の現在の資金にわずかに追加して、収益創出モデルに従ってサポートできる追加サービスの決定も行っている。たとえば、契約に基づいて入稿整理またはデザインのサービスを提供する場合がある。一部のケースでは、すでにこうしたサービスが、他のユニットまたはベンダーから利用できるようになっている。

プログラムサポートの別の側面として理解すべき重要な事項は、出版サービスは、大学の出版部のように、個別の運営ユニットとして取り扱われることが少ないということだ。通常は、デジタルリポジトリ整備、デジタル化プログラム、著作権管理のアドバイスなど、関連するサービスの新しいプログラ

ムに組み込まれる。これによって、出版サービスの開始と進展の段階で、重大な相乗効果と重要な効率性の両方を実現できる。図書館は、新しいコンテンツと、デジタル形式に変換された印刷コンテンツを結び付けて、大量の重要なコンテンツを作成している。

多くの研究図書館では出版サービス整備のため、継続的にスタッフと予算を割り当てているが、短期資金によって1つまたは数件の実験的プロジェクトを行っている図書館もある。何らかの出版サービスを継続して研究図書館内で整備し発展させるという期待は共通だが、ほとんどのサービス活動は発展段階にありサポート戦略は流動的だ。

パターンと傾向

大学出版というコンテキストの中の図書館出版

出版とは何を意味するかという、検討すべき疑問がある。Borgman は「文書を他者に読ませるために「公開する」とき出版が発生する」と示唆している。(Borgman, 2007, p. 48)これは、学術機関と専門分野のリポジトリや、個人が Web サイトに投稿した文書までも含む、たいへん幅広い定義だ。図書館の出版サービスも同様に、幅広くとらえることができる。図書館が、デジタルリポジトリとデジタル図書館によって、関連するサービスを増やしていることは確かだ。ここでは主にジャーナルとモノグラフという従来型の出版形態を制作する出版サービスに焦点を置いて分析しているが、図書館は新旧の出版形態で幅広い領域を取り扱っている。

大学ベースの査読済み出版には、研究機関における長く名誉ある伝統がある。印刷物のジャーナルとモノグラフは長年大学で出版されており、大学の出版部だけでなく、各部門や研究機関(さらには少数の図書館)によっても出版されてきた。ARL メンバーの図書館はこの伝統に参入するに従って、自身の出版プログラム以外に多数の大学ベースの出版物があることを認識するようになっていく。インタビューは、図書館の出版サービスに取り込める 1 つの情報源は、既存の大学ベースの出版物であることを示唆している。

高品質の学術研究に焦点を置くことが出版サービスの特徴である。多くの図書館は査読済み論文のサービスしか提供していないが、一部では学生のジャーナルなど他の種類の著作物もサポートしている。通常、図書館が出版するタイトルは、完全に伝統的な査読のプラクティスを導入している。スタッフは一般的にコンテンツの評価は行わず、図書館外からの推薦に依存している。出版されるジャーナルの大多数は確立されたタイトルで、既存の査読プラクティスを伴っている。新しいジャーナルは、標準的な査読の手続きとワークフローを準備する、学部の編集者の要求によって発刊される。図書館サービスを使用したモノグラフシリーズはほんの数件しかないが、標準的な出版の選別プラクティスを使用したと報告されている。いくつかのケースでは大学の出版部による資金提供があり、出版部での通常の受入プロセスが使用されている。

図書館サービスは、電子出版と電子出版物を重視し、変容するプロジェクトに関与し、純粋に市場ベースの出版システムの需要に応えることがますます困難になった、価値ある学術研究に焦点を置くといった点で革新的である。その結果、図書館出版は、伝統的な分野と新しいモデルによる出版との間の橋渡しになっている。

学者と研究者のニーズ

図書館がどのような形態のサービスをサポートできるかにかかわらず、多くの著者や編集者は多くのオプションを求めており、それは伝統的な出版方法では提供されないと思っている。学術的ジャーナルと学術的モノグラフが直面している課題の深刻さについては意見の不一致が見られることが多いが、多くの研究者は機能不全という認識に対処している。

個人が研究図書館に頼り、出版の問題について支援を求める状況は様々だが、図書館が出版する著作物のタイプは編集者と著者の意欲を示す1つの指針になる。出版の実質的な過半数は、既存の出版体制から図書館の出版サービスに移行しようとしている。出版サービスの契約を結んでいる学術団体が、代替方法を探している場合や、出版事業でのパートナーが既存のビジネスモデルでは自身の費用をまかなえないと気付いて契約を失っている場合がある。印刷物のみのジャーナル出版が、デジタル出版に進出するためのメカニズムを求めていることもある。関連するタイトルが、研究の専門分野では評価されているが、より費用のかかる出版モードを支えられるほど幅広い読者を持っていないことがある。一部の小規模のジャーナルは、学術的モノグラフへの懸念を引き起こす同じ難問、つまり出版する研究の品質にかかわらず収益を生むという必要条件に直面し始めているようだ。

出版サービス需要を促進するものについてのさらなる手がかりは、図書館のサービスを求める専門分野との協力関係にある。多くの図書館は人文科学との初期からのパートナーシップを報告しているが、これは図書館員が通常は人文科学の研究者と密接に連携していることを反映しているのだろう。多くの例は社会科学および科学の専門分野からの関心を示していた。教育学は、科学や保健関係の専門分野とともに、初期の出版プロジェクトの発注元として言及されることが多かった。いくつかの図書館では、出版のニーズをより積極的に識別することにシフトしながら、科学分野、特に新興の専門分野と学際的な分野で多くの関心を引くことを期待すると言及している。

少数のケースでは、図書館は、学生の研究のために出版を整備することで、学部から大きな関心を寄せられている。数人のプログラムディレクターは、これに伴って、学部生に調査スキルを教えて研究プログラムに組み込むことを重視するようになってきていると報告している。学術的なコミュニケーションプロセスは、学部生を組み込むことが多くなる大規模な研究プロセスに本来必要なものだが、従来の出版社はこのような研究の普及をサポートすることにあまり興味を示していない。デジタル学位論文など、学生が書いた多数の研究論文の使用が高まっていることは、そこに教育上の価値を超えた価値があることを示唆している。(Royster, 2007)

サービスの開始

使命、サービスの位置付け、ローカルな需要が検討されているのに比べて、イデオロギーが図書館

の出版プログラムの開始に果たす役割は小さい。オープンアクセスのムーブメントは、手頃な価格で広くアクセスできる出版の新しい機会に注目を集めた。ただし、インタビューでは、図書館ベースの出版プログラムは明らかな要求に実際的に応えるもので、クライアントを探し求めるサービスではないことを示唆している。つまり、学術的な著作物へのアクセスと収益の最大化という二重の目的で、低費用の出版プラクティスとサービスを作る機会を特定し整備しているということだ。図書館の出版はムーブメントというより整備だ。

ほとんどのプログラムはオープンアクセスのタイトルを取り扱い、新しいビジネスモデルで見つけた利益を育てているが、多くは予約購読やその他の従来型モデルを採用するタイトルも取り扱っている。間接費の少ない、つまりオープンソースのソフトウェアに基づき、関連するサービスと緊密に統合され、デジタル形式を最大限に利用し、余計な付属物は最小限に抑えた出版形式は、小規模出版が抱える課題への合理的な対処方法になり、オープンアクセスはこのアプローチに適している。

イデオロギーの先を考えると、多くの研究図書館が出版サービスの整備に関わるようになった要因と状況についての調査データおよびプログラムマネージャとのインタビューからは、あるパターンが浮かび上がる。特に過去数年に整備されたプログラムには、共通する3つの要素が関わっている。

第1の要素は、図書館のスタッフ、主に図書館のリーダーが学部のニーズについて、通常は編集者やすでに出版に関わっている他の学部から複数の意見を聞いていることだ。図書館にアプローチする学者や研究者は、出版について初心者ではなく、むしろすでにある程度の関わりを持っていて確立された出版システムでは取り扱えない問題を認識している。確立された出版社がニーズに応えられなかったのではなく、単純に、確立されたシステムと連携して真剣に努力してきたが何らかの失敗をした多くの個人がいて、図書館の能力を調べる気にさせるようなすき間を残したということだろう。

第2の要因は、何らかの関連するインフラストラクチャの構築だ。インフラストラクチャには、テクノロジー(ソフトウェアとサーバー)だけでなく、スタッフの専門知識の進展やパートナーとの関係も含まれる。口火になる可能性がある活動は様々だ。たとえば、デジタル化活動、様々なデジタルリポジトリの整備(学術機関、専門分野)、デジタル人文学センターなどの新しい形態の学術研究をサポートするサービスなどがある。インフラストラクチャは、学部がニーズを表明するための中心を作っただけでなく、図書館の出版サービスの可能性を最初に調査するための資金基盤にもなった。

多くのケースで、出版サービス整備に貢献した3つ目の要素は、新しい資金を利用できたことと、既存の資金を何らかの組み合わせで再割り当てできたことだ。特別補助予算、助成金、パートナーの資金の利用などの新しい資金が利用できるのは短期間だろう。これらは、スタッフの再配置、新しい位置付け、予算上の資金など、プログラム構築のためのより基礎的な関与によるものだろう。

出版サービス整備の触媒となる新しい資金の最も目覚ましい例は、カナダの Synergies プロジェクトだ。Canada Foundation for Innovation は、学術的出版インフラストラクチャの整備の資金として、大学図書館のグループに 1150 万カナダドルを与えた¹⁴(詳細は付録 C を参照)。その結果、5 つのパートナー図書館と 16 のその他の図書館が連携して、図書館ベースの出版サービスをサポートする共有機能の整備に貢献することになった。

規模を構築するための位置付け

研究図書館は、全体としては数百のタイトルの出版に関わっているが、ジャーナル市場全体では比較的小さいセグメントだ。図書館の出版サービスは、サポートする出版モデルの種類と整備するサービス提供の規模を明確にするという、かなり初期の段階にある。10 以上のジャーナルタイトル、または一握り以上のモノグラフをサポートするプログラムは現在のところわずかだ。少数のプログラムはかなり大きな規模で整備されているが、ほとんどのプログラムは新規だ。ほとんどのプログラムでサービス開始日を明確にすることが困難なのは、協議、調査、計画の期間の延長によって、出版開始が実際より前の日付になっていることが多いからだ。プログラムマネージャは、最初の話し合いから、最初の巻または号の一般リリースまでのプロセスを完了するには、通常は数年かかったと話している。

出版サービスの将来の計画の中で、プログラムマネージャは、基本サービスに必要な資金を明確にし拡張性を育むための共同の評価基準に注目している。プログラムは、初期学習曲線に沿って少数の出版物を使用して進め、その後はより広い範囲の出版をサポートするためにサービスを拡張するための経験を構築する計画だ。規模は、精巧なサービスを構築できる能力より、サポートできる出版物の数の増加で計られることが多い。少数の図書館ではサポート可能な出版サービスの基本セットを明確にする自信を持てるようになってきたが、サービスの需要に完全に応えるには、図書館の資金または機関からの新しい資金のより大規模な再割り当てが必要になる可能性がある。少数のプログラムでは、ローカルな協力関係がない顧客のために、収益を生み出せる出版をサポートできるようにサービスを拡大する準備すらしている。もっと一般的には、図書館は機関としてのサポートの可能性を探りながら、同時に出版サービスの提供に関わるものは何かを学ぶプロセスを開始している。

プログラムの整備と確立の両方で、図書館は顧客とともにサービスのニーズと可能性を探すという長年行ってきたプラクティスを再現している。事実、出版サービスのために共同的なアプローチを取っていることは図書館活動に顕著な特徴である。図書館は多くの学者や研究者と緊密に連携して幅広い図書館サービスを提供しており、このサービス文化がパートナーシップと緊密な関係の形成に役立っている。

Synergies プロジェクトは、この点でも特記するにふさわしい。カナダの図書館の共同アプローチは国

からの投資を受けて、重要な共通の出版機能を作り上げるだろう。オープンソースの出版ソフトウェアのさらなる開発を Public Knowledge Project によってサポートすることで、世界中の出版プログラムがこの共同プロジェクトの恩恵を受けるだろう。Synergies は、重要なオープンソフトウェア出版ツールの開発とともに、図書館ベースの出版を発展させる共通インフラストラクチャを作成するためのたたき台に出資する予定だ。このプロジェクトでは特に、社会科学と人文科学の学術団体によるジャーナル出版に重点を置いている。そのため、従来の出版プラクティスを維持すること、または確立された出版社の中でパートナーを見つけることが特に困難な分野に適している。プロジェクトの目標は、デジタル世界のために基本的な出版サービスの規模を構築し定義することだ。Synergies が成功すれば、他の機関によるコラボレーションや他の出版活動が図書館ベースの出版をうまく受け入れるための道を示すことになるだろう。

将来への期待

研究図書館は、出版サービスを拡大する時期の開始点にいるように見える。ある種の基本出版サービスが研究図書館の中核サービスとなることで意見が一致しつつある。さらに、一部の図書館では、需要に応える低費用の追加サービスを支援する中核を超えたところまで拡張する機会を探している。

図書館の予算内にしっかりしたサポート基盤があるが、既存のまたは新たな需要に応じて出版サービスを実際に成長させるには、多数の機関が大学の経営陣からの追加サポートが必要だとしている。図書館は資金を別に振り分けることができ、またそうする必要はあるのだが、少なくとも確立された学術的出版の現在の費用構造を維持するためには、既存の図書館の予算を補助する幅広い機関からの投資が必要ということが、プログラスマネージャの間で一致した意見だ。

図書館資料の予算に負担となる同じ力が、大学環境で大学の顧客のために提供する出版サービス需要を確実に増やしているようだ。特に小規模なジャーナルは、オプションを比較検討しているが、その多くはアグリゲータサービスまたは商業的な出版社が提供するオプションのどちらにも満足していない。学術的なタイトルは何とかオンラインの未来への道を見つける必要があり、研究図書館は可能性のあるパートナーであり新しい出版形態の専門知識の集積所であるという認識が高まっている。図書館が普及機能を整備していない場合でも、アドバイスサービスの需要は増えている。

図書館の出版プログラムはすき間出版物に最も効果的だろうが、注目度の高い出版物をサポートできるだけ十分な規模を持つ可能性もある。意欲的な Synergies プロジェクトには、カナダの人文科学と社会科学のすべての団体出版物に対するサービス提供が含まれている。図書館の出版サービスが広く認識されるにつれて、著者と読者の両方でより広い顧客を求める出版にとって魅力的になるようだ。

図書館の出版サービスは、図書館サービスをより直接的に研究プロセスに組み込むための多数の関連サービスとともに発展している。図書館の出版に携わるスタッフは、同時にデジタルリポジトリ、デジタル図書館、デジタル化、デジタル保存、メタデータサービスの整備にも従事している。図書館は、出版サービスとも交差する、ライセンスと著作権のアドバイスのための専門知識を構築している。スタッフはサービスデスクを離れて研究の場所へと移っている。学部は、カリキュラムと学習オブジェクトの設計で、図書館スタッフとますます緊密に連携している。こうした傾向は、図書館の出版サービスと相乗効果をあげて、関連する一連の新サービスの効率と反応のいい整備を可能にする。出版サービスは、研究図書館で起こっている急速な変容のほんの一部分なのだ。

パートナーシップは、図書館のほとんどの出版プログラムで整備のための鍵となる。ネットワーク環

境は共同作業に役立ってこれを促進し、状況を変える可能性のある図書館出版が学術的コミュニケーションに提供する重要な要素を示すだろう。組織的に、図書館はパートナーシップを作り、既存の提携関係に基づいて築き上げる立場にある。図書館では、出版サービスへのニーズとの緊密な関係を維持して、補完的な貢献を活用して新しい状況を変える力のある出版モデルを提供するシステムを整備する態勢が整っている。

大学のコンピュータ部門や学術部門と関係を持つことは最も一般的なパートナーシップのようだが (Synergies の複数機関のコラボレーションはともかくとして)、図書館と大学出版部とのパートナーシップは特に注目に値する。出版プログラムを整備中の図書館は、図書館と出版部が共存する多くの大学で、大学出版部との共同プロジェクトに手を伸ばし進展させている。少数の注目すべきケースでは、図書館の出版サービスは完全に出版部とのパートナーシップに基づいているが、多くの場合は、2つの組織の出版プログラムに付属する形で共同プロジェクトを行っているようだ。多くの研究図書館は大学出版部への投資をしていない機関に置かれており、少数のケースでは、図書館はデジタル出版開始の評価基準の中に出版サービスを位置付けてすらいる。(Jaschik, 2007; Henry, 2007) この傾向、つまり出版部と図書館とのパートナーシップが1つの統合された出版サービスに成長するのか、または2つの幅広い出版プログラムとして交差したまま継続するのかわからない。¹⁵

多様性と実験は図書館の出版サービスの現在の状態を顕著に示している。いくつかの点で従来の出版モデルに最も近いプログラムは、新しい機能と新しい経済性を活用することに焦点を置くプログラムよりも進展が遅いように見える。図書館の出版サービスの価値と機会のどちらも、学術的出版の分野またはそれ以上を変える潜在的な力があるかどうかにかかっている。図書館では、研究図書館のインフラストラクチャ内で維持できる制作と配信のモードでのサービス規模を模索している。

将来検討すべき問題

報告した調査の範囲と深さには必然的に限りがある。図書館の出版サービスに関する組織的な調査が不足しているのは、そこに十分な可能性があることを示しており、出版プログラムのマネージャとのインタビューは、図書館の出版サービスの定義について様々な側面を確認する作業が今後も必要であることを示唆していた。ビジネスモデルの開発の必要性は、プログラムが進化している限り続くことは明らかだ。

Synergies のパートナー機関は例外として、図書館の出版プログラムは、コミュニティでの討議が空白なまま整備されているように見える。図書館と出版部のパートナーシップ(または少なくともその可能性)では、図書館の出版サービスに直接焦点を置く場合よりも、もっとたくさんの議論が行われているだろう。既存の図書館の出版サービスの範囲と規模は、出版プログラム間で情報を交換する機が熟したことを示している。

明らかに、出版サービスが繁栄するには機関からの大きな支援が必要だ。研究図書館にはサービス整備を開始する意思とやる気があるが、それには機関の資金がより広く投入される必要があり、効果的な機能を構築するため機関の経営陣に新しい資金が求められることはほぼ確実だ。図書館の経営陣、そしていよいよ大学の経営陣が、急速に進化する大学の出版に投資して育てることの可能性、目標、資金の必要性、調査の価値をじっくり検討する機が熟している。問題は、もはや図書館が出版サービスを提供すべきかどうかではなく、どのようなサービスを提供できるかになっている。したがって経営陣は、特に図書館サービスの関連する変化という文脈の中で、図書館の出版サービスへの投資が大学にとってどれほどのメリットになるかを問わなくてはならない。新しい投資は必要だが、そこには出版サービスの大きな需要と、戦略的な投資から得られる大きなメリットがある。

規模の達成を目標とする図書館の出版サービスでは、出版のキャパシティの成長とそのキャパシティの取り込みを監視することが、図書館のコミュニティと大学の経営陣にとって重要になるだろう。出版プログラムは、一般的に、出版物開発の処理過程について報告していた。Synergies プロジェクトは特に、出版を図書館ベースの出版システムに移行するための大きな目標を持っている。

近い将来、研究図書館が共同で、中核となる出版サービス特にジャーナルについて、21世紀のネットワークベースの出版と普及システムの中で定義することが可能になるだろう。すでにオープンソースアプリケーションの成果を提供している出版サービスによって、中核サービスについての同意が、戦略的な投資を出版プログラムへのこの種の共有資金へと導くだろう。定義された中核サービスは、サービス評価、ビジネスモデル、整備、投資計画についての基準の特定も支援する必要がある。

最後に、本研究では、主にジャーナル、モノグラフなどの確立された出版モードの変容に焦点を置いて、図書館の出版サービスについて考察した。学術的著作物の組織化、普及、著述のための新しいモードが出現するにつれ、研究図書館では、どのようなサービスが新しい種類の出版をサポートし奨励できるか、またこのようなサービスを本書で考察したような出版サービスにどう関連付けていくかを、さらに理解する必要がある。

巻末注

- ¹ <http://pkp.sfu.ca/>を参照。
- ² <http://dpubs.org/>を参照。
- ³ <http://digitalcommons.bepress.com/journals.html> を参照。
- ⁴ <http://www.bioone.org> を参照。
- ⁵ <http://muse.jhu.edu> を参照。
- ⁶ <http://scholar.lib.vt.edu/about/aboutejs.html> を参照。
- ⁷ <http://www.arl.org/resources/pubs/br/br252-253.shtml> を参照。
- ⁸ <http://pkp.sfu.ca/>を参照。
- ⁹ <http://dpubs.org/>を参照。
- ¹⁰ <http://digitalcommons.bepress.com/journals.html> を参照。
- ¹¹ Public Knowledge Project は、OJS をサポートし、オープンソースのカンファレンス管理ソフトウェア Open Conference Systems (OCS) も配信している。
- ¹² <http://tags.library.upenn.edu/help/>を参照。
- ¹³ Synergies プロジェクトについては Web サイト <http://www.synergiescanada.org/>で参照可能。
- ¹⁴ <http://www.innovation.ca/media/index.cfm?websiteid=486> を参照。
- ¹⁵ (Harley, 2008)p.17 の Crow のコメントに注意。

注: URL はすべて 2008 年 3 月 26 日にアクセスしたものの。

引用文献

American Council of Learned Societies Commission on Cyberinfrastructure for Humanities and Social Sciences.2006. *Our Cultural Commonwealth: The Report of the American Council of Learned Societies Commission on Cyberinfrastructure for Humanities and Social Sciences.*New York, NY: American Council of Learned Societies.

http://www.acls.org/uploadedFiles/Publications/Programs/Our_Cultural_Commonwealth.pdf.

Borgman, Christine L. 2007. *Scholarship in the Digital Age: Information, Infrastructure, and the Internet.*Cambridge, MA: The MIT Press.

Brown, Laura, Rebecca Griffiths, and Matthew Rascoff.2007. *University Publishing in a Digital Age.*New York, NY: Ithaka. <http://www.ithaka.org/strategic-services/university-publishing>.

Candee, Catherine H., and Lynne Withey.2007. *Publishing Needs and Opportunities at the University of California: SLASIAC Task Force on “The University as Publisher.”*

http://www.slp.ucop.edu/consultation/slasiac/102207/Publishing_Task_Force_DRAFT_18_Oct_07.doc.

Crow, Raym.2006. *Publishing cooperatives.**First Monday* 11 (9).

http://www.firstmonday.org/issues/issue11_9/crow/.

Hahn, Karla L. 2006. *The state of the large publisher bundle: Findings from an ARL member survey.* *ARL: A Bimonthly Report on Research Library Issues and Actions from ARL, CNI, and SPARC*, no. 245 (June/August 207): 1.6. <http://www.arl.org/bm~doc/aribr245bundle.pdf>.

Harley, Diane.2008. *The University as Publisher: Summary of a Meeting Held at UC Berkeley on November 1, 2007.* Berkeley, CA: Center for Studies in Higher Education, University of California, Berkeley. <http://cshe.berkeley.edu/publications/publications.php?id=295>.

Henry, Charles.2007. *Rice University Press: Fons et origo.**The Journal of Electronic Publishing* 10 (2). <http://hdl.handle.net/2027/spo.3336451.0010.205>.

Indiana U. Library publishes first e-journal.2008. *Library Journal Academic Newswire.*

Jaschik, Scott.2007. *New Model for University Presses.* *Inside Higher Ed*, July 31, 2007.

---- 2008. Abandoning Print, Not Peer Review. *Inside Higher Ed :: Jobs, News and Views for All of Higher Education*.

Johnson, Richard K., and Judy Luther. 2007. The E-only Tipping Point for Journals: What's Ahead in the Print-to-Electronic Transition Zone. Washington, D.C.: Association of Research Libraries. http://www.arl.org/bm~doc/Electronic_Transition.pdf.

King, C. Judson, Diane Harley, Sarah Earl-Novell, Jennifer Arter, Shannon Lawrence, and Irene Perciali. 2006. *Scholarly Communication: Academic Values and Sustainable Models*. Berkeley, CA: Center for Studies in Higher Education, University of California, Berkeley. <http://cshe.berkeley.edu/publications/publications.php?id=23>.

MLA Task Force on Evaluating Scholarship for Tenure and Promotion. 2006. *Report of the MLA Task Force on Evaluating Scholarship for Tenure and Promotion*. New York, NY: Modern Language Association. http://www.mla.org/tenure_promotion_pdf.

Newman, Kathleen A., Deborah D. Blecic, and Kimberly L. Armstrong. 2007. *Scholarly Communication Education Initiatives*. SPEC Kit 299. Washington, D.C.: Association of Research Libraries. <http://www.arl.org/bm~doc/spec299book.pdf.zip>.

Orphan, Stephanie. 2006. "Blackwell adds 59 journal titles." *College & Research Libraries News* 67 (2): 77. <http://www.acrl.org/ala/acrl/acrlpubs/crlnews/backissues2006/february06/news.cfm>.

Phillipp, Chris. 2007. "Scholarly journal *Medieval Philosophy and Theology* finds an online home at Cornell." *Cornell Chronicle*.

Pitt's Libraries and University Press Collaborate on Open Access to Press Titles. 2007. University Library System, University of Pittsburgh. <http://www.library.pitt.edu/uls/news/pittpress.html>.

Royster, Paul. 2007. Publishing Original Content in an Institutional Repository. *In Faculty Publications, UNL Libraries*. Lincoln, NE: University of Nebraska. <http://digitalcommons.unl.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1133&context=libraryscience>.

Van Orsdel, Lee, and Kathleen Born. 2007. Periodicals Price Survey 2007: Serial Wars. *Library Journal* 132 (7):43.48. <http://www.libraryjournal.com/article/CA6431958.html>.

注: URL はすべて 2008 年 3 月 26 日にアクセスしたもの。

付録 A: 調査の設計: データの収集手段と回答率

本書のデータは2つの情報源から取得した。最初のデータ収集段階では ARL メンバーである図書館の調査を行った。ARL メンバーは、米国およびカナダの 123 の大規模研究図書館で構成される。この調査は Web フォームを使用して、2007 年 9 月と 10 月に実施した。調査に対して 80 のメンバー図書館から回答があり回答率は 65%である。これは、ARL の年次 SPEC 調査でもよく見られる回答率だった。回答のあった図書館は、1つを除いてすべて大学の図書館である。

記入を容易にするため、調査用紙は大部分を「はい/いいえ」で回答できる質問で構成した。作成にあたっては、図書館の出版プログラムマネージャの少人数のグループに相談し、同グループに対して試験的な調査を行った。調査の質問内容は http://www.arl.org/bm~doc/cplp_survey_2007.pdf で参照できる。

調査回答は、記述統計の生成、クロス集計表の作成、多変量分散分析と様々な分析した。

最初に実施した調査回答の調査と分析に基づき、データ収集の第 2 段階として、回答のあった米国とカナダの図書館から選んだ 10 人の出版プログラムマネージャに対して半構造的分析を実施した。インタビュー対象の 1 人だけは、先の調査項目の作成にも参加していた。インタビュー対象者は無作為に選択したのではなく、調査への回答で把握したプログラムの特徴に基づき多様な対象を選んでグループを組んだ。特に、明確なビジネス計画と、大学の出版部とのパートナーシップを報告したプログラムを含めるように努めた。

インタビューの所要時間は 30~60 分で、2007 年 12 月と 2008 年 1 月に電話によって実施した。会話の内容は広範な意見の中から採取した。

次に、代表的な質問を記載したインタビューガイドの例を示す。

2007～2008 年 ARL による
図書館出版に関する調査のフォローアップインタビュー、
インタビューガイドの例

日付:

インタビュー対象者の所属機関:

氏名:

肩書:

インタビューでの焦点:

質問:

あなたの図書館では出版サービスの整備にどれだけの期間がかかりましたか。

なぜ出版サービスに乗り出したのですか。

詳細な質問:

図書館内でプロセスを推進したのは誰ですか。

図書館外でプロセスを推進したのは誰ですか。

出版サービスを求める専門分野の分布について説明してください。

詳細な質問:

誰にどのように役立つというパターンはありますか。

図書館の出版サービスの整備は、確立された出版にどう影響すると思いますか。

出版サービスはデジタル化サービスとデジタル図書館サービスにどう関連すると思いますか。

詳細な質問:

学術機関リポジトリサービスについてはどうですか。

著者の著作権に関するサービスはどうですか。

個々の出版物のビジネスモデルを開発するためにどのようなアプローチをしていますか。

出版サービスにビジネスモデルがあると伺いました。それはどのようなものか、またどのように開発したか説明してください。

図書館と出版部とのパートナーシップについてももう少し詳しく説明してください。

詳細な質問:

期間は。

推進者は。

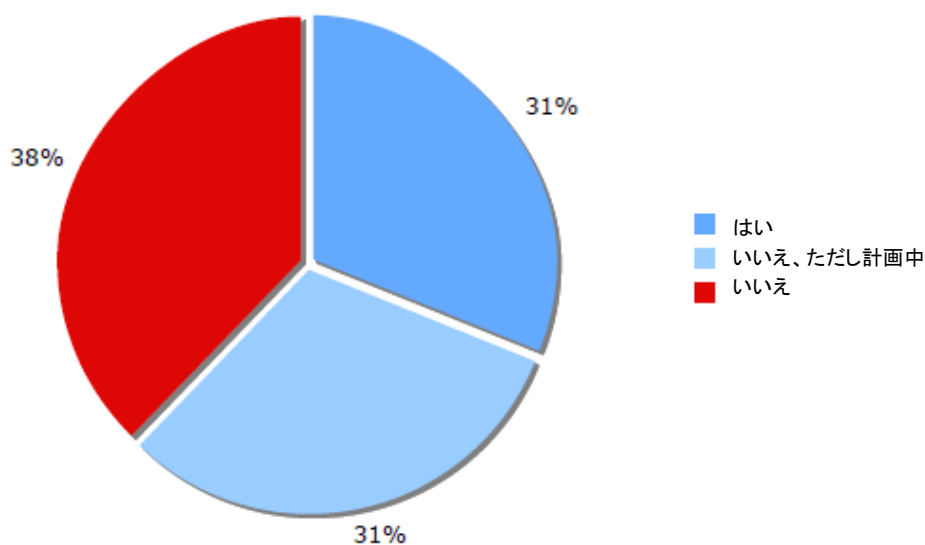
相対的な貢献度は。

資金計画は。

付録 B: 研究図書館の出版サービスと大学の出版部

図書館は、出版サービスを提供できる大学で唯一の事業体ではない。本調査では、図書館と出版部それぞれの共同出版だけに焦点を置くのではなく、図書館と出版部とのパートナーシップについてもいくつかのデータを収集した。ARL メンバーの多くが、大学の出版部と何らかの形で共同プロジェクトを実施していると報告した。

図 7 出版部とのパートナーシップによって共同出版を行っていると報告した図書館の数



研究データの限界を認識した上で、このような共同プロジェクトについての考察を要約したリストをここに掲載する。

- 図書館と出版部とのパートナーシップは一般的に、図書館と出版部のどちらの出版活動の中でもほんの一部（通常はごく小さな一部）に過ぎない。
- 焦点を置くコンテンツについて大きな断絶があることが目立つ。図書館はジャーナル出版のサービスに重点を置いているが、出版部ではモノグラフの出版に最も強く投資している。新しいコンテンツを制作する共同プロジェクトでは、主にモノグラフのコンテンツに重点を置いている。図書館が出版部のジャーナル出版のために貢献しているのは、主にバックナンバーのデジタル化である。
- 出版部と図書館の出版との間にある別の断絶は、研究図書館のコミュニティに比べて、大学出版部のコミュニティの規模が小さいために発生している。多くの研究図書館は学術機関にあるが、対応する大学の出版部と協力関係を結んでいない。出版部との何らかの共通した提携を報告する多くの研究図書館は、出版部は、図書館がサポートする大学だけでなく、大学のシステムのために役立っていると語っている。

- 研究図書館ではいくつかのパートナーシップを求めている。研究図書館の選択肢は幅広く、出版部とのパートナーシップの可能性を超えて関心を広げる傾向がある。
- 図書館の出版サービスは通常、様々な関連サービスに深く組み込まれていて、そうしたサービスの多くはパートナーになる可能性のある出版部にとってただちに興味を引くものではないので、図書館は出版部との既存のまたは潜在的なパートナーシップを超えて機能性を構築する必要がある。
- 新しい種類の効率性が出現して、ネットワーク環境での戦略的な投資を支配している。学術的コミュニケーションのシステムでの歴史的な分業が崩壊して、出版サービスをいくらか独立し分離した出版部に制限するメリットが小さくなり、研究と教育をサポートするサービスの幅広いマトリックスの中に出版サービスを組み込むことで生まれる相乗効果と相互投資が支持されている。

付録 C: Synergies: カナダの学術出版での全国的インフラストラクチャの構築(転載)

UNIVERSITY PUBLISHING

続き

Synergies: カナダの学術出版での全国的インフラストラクチャの構築

Rea Devakos、Scholarly Communication Initiatives コーディネーター、Karen Turko、Special Projects ディレクター、University of Toronto Libraries

編集者の注記: 2007年初頭、Canada Foundation for Innovation は、社会科学と人文科学に焦点を置く2つのデジタル図書館プロジェクトに資金提供を行った。Canadian Research Knowledge Network および Synergies プロジェクトである。Synergies はカナダのより多くの研究をオンライン化し、Canadian Research Knowledge Network は世界中から社会科学と人文科学の文献にオンラインでアクセスするための資金援助を行う。いずれのプロジェクトも地域から相応の資金を受け、参加する機関からも追加資金が出る。この記事では、社会科学と人文科学のジャーナルの出版とアクセスを取り扱う、4年間の Synergies プロジェクトについて報告する。

小規模な多言語の国々は、学術的コミュニケーションの危機に対処する中で、特別な課題に直面している。しかし、ある国の考えは、学術活動や研究の成果を含む文献を通して、多くの場合は明確で、洗練されている。幸いなことに、その学術コミュニティは、新しい学問の制作と普及における最近のまたはこれからの一連のパートナーシップの恩恵を受けてきた。本書では、研究成果の出版とアクセスを取り扱い、拡張性と一般化の可能性の検証などでも貢献する共同プロジェクトについて説明する。Synergies は、4年間でカナダの図書館で出版サービスと専門知識を整備するだけでなく、出版者と編集者に制作レベルのサービスも提供する。Synergies は国家的プロジェクトで、実際的な目標として技術的なキャパシティを構築することを焦点としており、カナダの学術的記録を変換できるプラットフォームを提供することを意図している。

概要

Synergies プロジェクトは、カナダで出版された研究結果の電子的アクセスとデジタル出版サービスという、学術的コミュニケーションの2つの大きな構成要素を同時に取り扱う。Synergies は、デジタル知識の制作、保存、アクセスのための、全国的な分散ネットワークを開発しようとしている。形態には、査読済みジャーナル記事、データセット、学位論文、議事録、学術書、灰色文献などが含まれる。Érudit と Open Journal Systems (OJS) の2つの資金を活用して、Synergies は第一の焦点を社会科学と人文科学の逐次刊行物に置いている。この21大学によるコンソーシアムは、Université de Montréal と5つの地域の主要機関によって主導されている。¹

18 ページに続く

Synergies を主導する地域パートナー

ケベック: Érudit

Érudit は、Synergies のケベックノードで、学術ジャーナルのバックナンバーと最新号の制作と普及を使命とする非営利組織である。1998 年に設立された Érudit は、機関横断的なコンソーシアムで、Université de Montréal、Université Laval、Université du Québec à Montréal で構成される。提供するサービスには次のものがある。

- 最新号の XML、PDF、XHTML 形式でのデジタル出版
- 機関または個人の予約購読管理
- バックナンバーの XML および PDF 形式でのデジタル化
- 記事の記述データの準備と、書誌データベースへの送信

Érudit はすでに、科学、社会科学、人文科学の 46 のジャーナルで 30,000 件を超える記事を提供している。ケベック州政府からの資金提供により、Érudit が開発したソフトウェアスイートを使用して、XML 標準に準拠したジャーナルのデジタル出版が可能になった。このソフトウェアは、記事の編集処理の 90%を自動的に実行できる。これによって、低費用で国際的な標準に準拠した、高品質の編集による制作が可能になる。Érudit と他のプロバイダとの合意により、いずれかのポータルを使用して、配布されたコレクションへのアクセスが許可される。たとえば、Persee プラットフォーム

(<http://www.persee.fr/>)と National Research Council Canada の出版物

(<http://pubs.nrc-cnrc.gc.ca/>)を Érudit プラットフォームから利用できる。さらに、Érudit のデータモデルは、オープンソースライセンスに基づき、個人的にも公にも 5 つのジャーナルプラットフォームから利用できるため、全体では欧州と北米の 200,000 を超える学術ジャーナル記事にアクセスできる。

Synergies プロジェクトの一員として、Érudit はジャーナル制作機能をさらに進展させるだけでなく、データセットとモノグラフ用のモジュールも追加することになっている。Érudit の 95%以上のコンテンツがオープンアクセスである。Érudit には月平均 300,000 回のアクセスがあり、毎月 120 万件(ページビュー)のドキュメントが閲覧されている。Érudit のジャーナルには、Google Scholar、PubMed、Repère、Francis、OCLC、Cambridge Scientific Abstract、Chemical Abstracts Service、Elsevier、National Inquiry Services Center、ProQuest、Philosophy Document Center、Nines などのソースによってインデックスが付けられている。Érudit は LOCKSS に準拠している。

ARL 252/253 – JUNE/AUGUST 2007

ブリティッシュコロンビア: Public Knowledge Project

Synergies のブリティッシュコロンビアノードは、いくつかの方法によるジャーナルのサポートを提供する。Public Knowledge Project (PKP) は、University of British Columbia および Simon Fraser University の図書館と、Canadian Centre for Studies in Publishing のパートナーシップである。3つの重要なオープンソースソフトウェアコンポーネントである Open Journal Systems、Open Conference Systems (OCS)、OAI-MHP 準拠のメタデータハーベスタの継続的な開発とサポートを行っている。これは、他の Synergies ノードから広く使用されることになる。Simon Fraser University Library も、これらのアクティビティの調整を行い、また他の学術的デジタル化とリポジトリのプロジェクトもサポートしている。

Open Journal Systems (OJS) は本来、University of British Columbia が John Willinsky の主導のもとで開発したものだ。OJS は 7 年間で世界をリードするオープンソースジャーナル出版システムになり、最近では SPARC によって最先端プロジェクト (Leading Edge Project) として認められている。1,000 を超える非営利ジャーナル、商業的ジャーナル、オープンアクセスジャーナルが、単独の排他的なジャーナルから全国的な学術的出版ポータルまで、様々な設定で OJS を使用している。このソフトウェアは堅ろうで標準に準拠した、学術的ジャーナルのための出版管理システムで、編集ワークフロー管理、記事へのオンラインアクセス、全文検索、対話型の閲覧ツールを提供する。PKP コミュニティは、このプロジェクトに専門的な関心を持つ個人から、Instituto Brasileiro de Informação em Ciência e Tecnologia や、この Synergies のような大規模な組織まで、広い範囲を対象にしている。

PKP には Google Scholar、LOCKSS、SPARC、その他の組織との確立された関係があるため、ソフトウェアは広い学術コミュニティに対応できるように設計されている。OJS は SSHRC、Max Bell Foundation、Soros Foundation、International Network for the Advancement of Scientific Publishing、MacArthur Foundation から資金提供を受けている。

Atlantic Scholarly Information Network: Érudit と OJS との統合

Atlantic Scholarly Information Network (ASIN) は、University of New Brunswick Library の主導によって、Érudit リッチメタデータ記述を含む Érudit の XML ベースのプロセスと、OJS のジャーナル管理および配信サービスとの統合を開始している。現在は 12 のジャーナルが、この統合されたモデルで出版されるか、またはそのための合意に至っている。ASIN は機関リポジトリの新しいモデルにも投資しており、研究者に関連の深いものにする方法を追求している。このイニシアティブの一環として、University of New Brunswick の Electronic Text Centre では、DSpace 用の自動メタデータ生成アプリケーションを開発している。

アトランティックカナダの Synergies 機関による貢献には大きな自由度があるが、標準化されたレポジトリとジャーナルのサービスおよびプロセスのための緊密な地域のフレームワーク内で作業を行うこ

となる。研究成果は ASIN ポータルの学術的コミュニケーションモジュールによって配信される。地域のジャーナル諮問委員会の指導により、アトランティックカナダは、バックナンバーと最新号の一連の出版サービスを編集者に提供することになる。最適な機関で OJS インスタンスをホスティングすることから、OJS に統合された完全に XML マークアップされた記事と HTML 配信の提供までを手がける。

プレーリー: 保存

University of Calgary Library に主導される Synergies のプレーリーノードは、Synergies 保存プログラムの開発を担当する。既存の技術を利用して、信頼できるカナダのリポジトリのためのフレームワークを確立することを目的とする。当初は、このノードでは、保存のたたき台として、Synergies によって出版された社会科学と人文科学ジャーナルに焦点を置く。将来は、このインフラストラクチャは、機関がソース文書、未加工データ、Canadian Research Knowledge Network やその他の機関からライセンスを受けたマルチメディアコンテンツと資料を格納し保存するように拡張できる。プレーリーノードには Athabasca University、Universities of Saskatchewan、Universities of Winnipeg が含まれる。プレーリーノードは、OJS ソフトウェアを使用して、アサバスカの International Consortium for the Advancement of Academic Publication (ICAAP) と緊密に連携して作業を行う。

オンタリオ: Scholars Portal

オンタリオは、Ontario Council of University Libraries の Scholars Portal サービスと緊密に統合された集中操作型の出版サービスを、分散された機関の独自性とサポートをもって提供する。オンタリオノードには、University of Toronto (オンタリオ主導)、University of Guelph、York University、University of Windsor の 4 つの大学図書館が含まれる。サービスは OJS、Open Conference Systems、DSpace をベースにする。Scholars Portal サービスにシームレスに組み込まれた出版サービスによって、オンタリオの Synergies パートナーは、他では実現できない効果的で高度な情報開示と普及を可能にする。具体的にはジャーナル、議事録、リポジトリコンテンツが、Scholars Portal およびその他の検索サービスに統合または開示されるようになる。

Scholars Portal は、すべての専門分野からの、1 億件を超える引用と 1,200 万件を超えるフルテキストのドキュメントを格納するリソース開示サービスである。2005 年 1 月から 2007 年 4 月の期間に、2,000 万回の検索が行われ、8,000 の電子ジャーナルから 1,200 万件の記事がダウンロードされた。Scholars Portal サービスは、オンタリオの 20 の大学の教授、学生、スタッフが利用できる。サービスには出版されたジャーナルおよび議事録のセキュリティ保護されたアーカイブも含まれる。Scholars Portal のトラフィックによって、Synergies がサポートする出版物の新たな使用法が生まれることを期待している。

Synergies には、様々な環境のカナダ研究コミュニティからの参加者が含まれている。これには、教授、ジャーナル編集者、学術団体、研究センターの所長、Canada Research Chair を務める研究者、図書館員、出版者、技術者が含まれている。主導する地域パートナーは、それぞれに異なり補完しあう次の専門知識を提供する。

- Université de Montréal は、Érudit の出版とポータル技術
- Simon Fraser University Library は、OJS、Open Conference Systems (OCS)、メタデータハーベスタ、オープンソースソフトウェア開発
- University of Toronto Libraries は、OJS、OCS、リポジトリコンテンツのオンタリオの Scholars Portal への統合
- University of New Brunswick Library は、Érudit と OJS のエレメントの結合についての専門知識の向上
- University of Calgary Library は、保存と発行部数が限られたジャーナルへの取り組み

Synergies を主導する地域パートナーの専門知識、役割、貢献については、補足記事に記載する。

各地域の主導機関は順に、いくつかの大学と共同で作業を行う。地域の Synergies パートナー（現在 16 のカナダの大学図書館）は、様々なプラットフォームと関連する制作ツールから選択して、コンテンツの作成と維持ができるようになる。5 つの地域ノードは、プロジェクト全体の中の異なる開発セグメントを取り扱い、全体としてローカルサイトでシステムを利用するための開発、サポート、調整を行う。地域ノードは順に、主導ノードである Université de Montréal と緊密に連携し、適切な標準と相互運用メカニズムを特定、開発、実装して統合された中央プラットフォームを実現する。このプラットフォームはリソースを収集し、包括的でシームレスな方法によってすべての利用者に提示する。

地域的な構造によって、ローカルな出版の実情に即応し、カナダの 2 つの公用語を反映できる。一定レベルの複製と補完を組み込んで、ジャーナルのスタッフ、他の出版者、研究者との直接の相互作用を促進し、全国的に専門知識を配布してコンテンツの一貫性と保存を維持する。4 年計画のプロジェクトの 1 年目が終わると、関心を示す他の機関も参加を勧められるようになる。

デジタルオブジェクトの作成、配布、保管をサポートする幅広いツールが提供される予定だ。柔軟なインフラストラクチャは、オープンアクセスを促進する一方で、ジャーナルの編集者や出版者が予約購読オプションを構築し収益管理を維持することを可能にする。プロジェクトで開発されたコードはすべてオープンソースとしてリリースされる。既存の従来型プロジェクト、そしてライセンスに起因する複雑さを認めて、現在は適切なライセンスへの投資が行われている。

プログラムの説明

全国的なポータルによって、Synergies はカナダの社会科学および人文科学の出版物への一貫した強力なインタフェースを提供する。システムは様々なインデックス作成と検索のオプションを提供し、さらに革新的なアプローチを実現するため努力している。Synergies の技術は、Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting (OAI-PMH) に準拠する Unqualified Dublin Core などのメタデータの標準規格をサポートし、その他の主題や専門分野特有のメタデータ構造についても必要に応じてあるいは利用可能になった際にサポートする。Synergies は、コンテンツの検索と表示の両方で、英語またはフランス語による言語のローカライズオプションを提供する。

Synergies プログラムの目的

研究のオンラインへの移行

多くのカナダのジャーナルでは、オンライン化は ProQuest や EBSCO のアグリゲータに限られている。Social Sciences and Humanities Research Council (SSHRC) は 220 万ドルをジャーナルの研究と移行に割り当て、質の保証(査読と専門家による編集およびレイアウト)と公開された記録の作成に費やしている。SSHRC による補助と予約購読による収入は、一般的に、学術的コミュニケーションの効果を最大化する技術を導入するには不十分な資金だった。このジャーナル出版のための補助を補完するために、最近では中核的研究拠点への機関投資が行われたが、こうした研究拠点の多くは小規模な出版プログラムを持っている。さらに最近では、機関が機関リポジトリへの資金提供を始めている。

学術成果普及のための電子出版モデルは、カナダにおける研究の効果を高める新しい機会を示しているが、従来の印刷モデルが持つ基盤を欠いている。それは保管と永続的な識別制度で、2つの重要な要素である。これなしでは、電子的な普及システムの価値についての懸念が引き続き起こるだろう。これは、社会科学と人文科学が、社会的、歴史的、文化的遺産のための門番、保護者、奉仕者としての伝統的な役割を果たしてきたことと好対照を示している。Synergies は電子出版に長期にわたって関与する。5つの主導機関の過去の活動が、その関与を実証している。

公的資金を受けた研究へのアクセスの拡大

カナダのいくつかの資金調達機関は、公的資金を受けた研究をオープンアクセスにすることを政策で支援するように積極的に求めている。Canadian Institute of Health Research は最近、助成した研究に対して、オープンアクセスのジャーナルまたはリポジトリの保管物として公開することを義務付けた。SSHRC の「原則的な」オープンアクセスサポートは、全国的なインフラストラクチャがないために妨げられてきた。

永続的な公開インフラストラクチャの構築

多くの国ではすでに、研究成果を普及させるための公開インフラストラクチャを整備している。しかし、そのインフラストラクチャは、1つの学問分野または出版分野(学位論文、ジャーナルなど)に限定されていることが多い。Synergies は、すべての種類の大学出版物と研究成果を含む最初のインフラストラクチャになる。

複雑な分散環境は、政治的また社会的に達成されたものを表している。プロジェクトは、参画したカナダの21の大学またはそれ以上の場所で、出版、保管、普及の機能を構築することを目的とする。Synergies は米国の Project Muse、フランスの Persee、またカナダ国内ではオンタリオの Scholars Portal や Atlantic Scholarly Information Network などの普及のためのプラットフォームに直接リンクする。

機関と分野を超えたコラボレーションの構築

学術的出版の顔を効果的に変えるには、機関や分野を超えた継続的なコミュニケーションが必要だ。Synergies が助成するアプリケーションはおおむね成功した。それは、助成するエージェンシー、学術団体、出版者など、主な関係者の参加があったためだ。関係者は、全国、地域、地方の管理構造を通して、意思決定プロセスにも引き続き組み込まれる。事実、Synergies は、かつては競争者とも言えるような関係があった参加者間で、必要な多数の対話を生み出してきた。Synergies はまた、テキスト解析、計量書誌学、学会を超えた知識の可動化などの分野で、新しい研究課題のための貴重な環境を提供して、市民の情報を得る権利や、専門家と公の利益に貢献する。

オープンで堅ろうな進化プラクティスの整備

変容には、インフラストラクチャと多様性の両方に基準が必要だ。Synergies のパートナーによる多様なアプローチは経験の堅固な核になる。異なる技術プラットフォームを使用しているだけでなく、メンバーの機関には大きく異なる歴史とアプローチがある。あるメンバーは学術的コミュニケーションプログラムを長年実施しているが、別のメンバーは始めたばかりだ。また、あるメンバーは分離した費用回収ユニットとして図書館の中に位置付けられているが、別のメンバーは図書館の部門構造に組み込まれていて運用費から資金を受けている。あるメンバーは研究の統括責任者に報告し、別のメンバーは大学の出版部に報告している。サービスレベルとオープンアクセス出版への重点の置き方も異なる。

第一の焦点になるのは人文科学と社会科学の学術ジャーナルだが、プロジェクトでは様々なタイプの出版とすべての専門分野をサポートする。堅ろうで永続的なインフラストラクチャによって、Synergies プロジェクトが意図しているのは、学術的コミュニケーションの形態と行動基準についての経験を育むことだ。

Synergies は国家的プロジェクトで、…カナダの学術的な記録を変換できるプラットフォームを提供することを意図している。

まとめ

Synergies には、Ithaka のレポート「University Publishing in a Digital Age」に記載されたいくつかの重要な推奨事項と著しく重なる部分がある。² 著者は推奨事項の中で、オンライン出版機能を開発するには「強力な技術プラットフォーム」と「資本投資の分配」が必要だとしている。実現のための重要な鍵は、戦略的な投資、オンライン出版機能の開発、拡張性、適切に組織化された構造、コラボレーション、複数の媒体と形態の包含などだ。このプロジェクトには、Crow が求める出版の協同体に似たものもある。³

しかし同様に、著しく異なった点もある。主な点は、全国的な規模であることと、社会科学および人文科学のジャーナルを第一の焦点にしていることだ。Synergies のパートナーシップは、図書館内で公正に位置付けられているとともに、分野を横断してもいる。統一されたカナダのコーパスを促進することを目的としながら、堅ろうな技術的インフラストラクチャを提供することを原点にしてもいる。またこのプロジェクトは、公的な領域にも深く組み込まれて、オープンソース開発やオープンアクセスなどの新しいビジネスモデルの調査と拡大についても分担している。Synergies は「壮大な実験」であり、この先長くカナダと全世界のために役立つことを望んでいる。

プロジェクトの URL

Synergies: <http://www.synergiescanada.org/>

Érudit: <http://www.erudit.org/>

Public Knowledge Project: <http://pkp.sfu.ca/>

– Copyright © 2007 Rea Devakos and Karen Turko

¹ Université de Montréal は、全国的な主導機関でもあり、ケベック地域の主導機関でもある。

² Laura Brown, Rebecca Griffiths, Matthew Rascoff, “University Publishing in a Digital Age,” Ithaka Report, July 26, 2007, <http://www.ithaka.org/strategicservices/university-publishing/>.

³ Raym Crow, “Publishing Cooperatives: An Alternative for Non-Profit Publishers,” *First Monday* 11, no. 9 (2006), http://www.firstmonday.org/issues/issue11_9/crow/.

著者の許可を得て転載。

<http://www.arl.org/bm~doc/arl-br-252-253-synergies.pdf>